

ローマ字マウスパッドの効果検証

EFFECT OF THE MOUSEPAD WITH JAPANESE INPUT TABLE ON JFL LEARNERS

北川利彦、チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学

Toshihiko Kitagawa, Canakkale Onsekiz Mart University

概要：本研究では、市販のローマ字変換表マウスパッドが日本語学習者のキーボード入力改善にどの程度効果があるか検証を試みた。マウスパッド導入時に実施したアンケート調査から、学習者が正しく日本語ローマ字入力できない音節は、拗音、特に濁点を伴う拗音とエ段の拗音が多いということが判明した。また日本語学習者のパソコン上での日本語使用頻度が高いほどローマ字入力の習熟度が高いという結果が出た。この傾向からローマ字マウスパッドが日本語入力の補助になる可能性が示唆された。しかしながら、PC所有者の割合が当初の予想よりも高く、PC室の利用頻度が下がってきているため、期待する効果が得られない可能性も予想される。

キーワード：音節、日本語入力、マウスパッド、ローマ字入力、IME

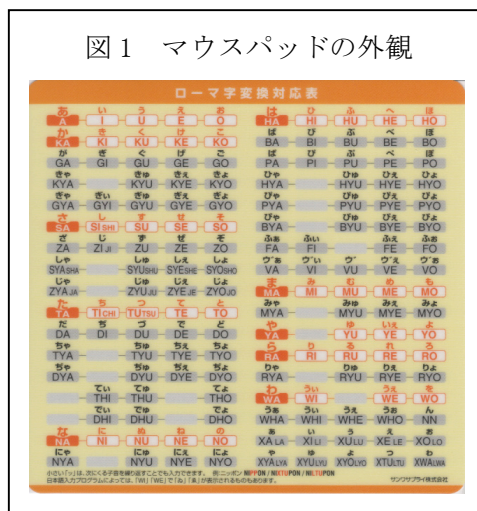
1. はじめに

ブロードバンドと呼ばれる高速インターネット通信料定額サービスの世界的な普及によって、従来のメールでのやり取りに加えて、MSN メッセンジャーをはじめとするリアルタイム・コミュニケーション・ツールが人気を博している。インターネットにさえ接続していれば所在地は関係ないため、日本国外にいる日本語学習者が日本語母語話者と交流することが容易になり、日常的に日本語母語話者とやり取りをしている学習者も少なくない。こうした傾向を踏まえると、お互いにスムーズにやり取りするために今まで以上に素早く正確に日本語入力をする必要性が高まっていると言える。

近年は、日本語学習者のキーボード入力に関するいくつかの研究もなされ、キーボードによる誤入力の起因分析や学習者向けに最適化された日本語変換辞書の開発が試みられる等（土屋、2000；畑佐・中澤，2002；土屋，2003；中澤・畑佐，2004）、今後も注目していくべき課題である。

そこで本研究では、学習者の日本語ローマ字入力の効率改善を目的として、市販のローマ字変換表が印刷されたマウスパッド（図1）を日本語

図1 マウスパッドの外観



学科PC室の端末全てに設置し、導入前後で学習者のローマ字入力効率がどの程度改善されるか検証を試みた。

2. マウスパッド導入時のローマ字入力習熟度

携帯電話が広く普及し、学生達のメールを打つキー入力速度に驚かされることも多いが、キーボードでの日本語ローマ字入力となると携帯電話のように行かない学習者もいる。日本語入力は通常、①ローマ字によるかな入力、②変換候補の出力、③候補の選定、④変換の確定、という四段階を経て画面上に文章が入力されるが、ここでは日本語入力の第一段階であるローマ字入力に焦点を当て、日本語学習者が苦手とするキー入力は何かを調査した。

第一回目の調査はローマ字マウスパッド導入直後の2006年11月に実施した。調査対象となったのは、チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学日本語教育学科の三年生と四年生で、それぞれ26名、16名から有効回答を得た。母語は全員トルコ語で、日本語能力は日本語能力試験二級程度の学習者が多い。調査方法は、マウスパッドとほぼ同一のかな一覧表を使用し、被検者にどのようにローマ字入力を行っているかをアルファベットで記入してもらった形式で実施した。

図2 誤入力率の高い上位30項目とその誤入力率

1	ぐい	98%	9	っ	81%	21	い	69%	31	ふえ	60%
1	ぢゃ	95%	12	わ	79%	22	う	69%	32	ふい	57%
1	ぢゅ	95%	13	てゅ	76%	23	え	69%	33	ふあ	55%
1	ぢょ	95%	13	ぎい	74%	24	お	69%	34	じえ	52%
1	ぐあ	95%	13	うい	74%	25	や	69%	35	ちえ	52%
1	ぐえ	95%	16	うあ	71%	26	ゆ	69%	36	にえ	50%
1	ぐお	95%	16	うえ	71%	27	いえ	67%	37	みえ	48%
8	ぢえ	93%	16	うお	71%	28	よ	67%	38	ぴえ	45%
9	ぢ	81%	19	てい	69%	29	づ	62%	39	りえ	45%
9	てよ	81%	20	あ	69%	30	ふお	62%	40	きえ	45%

ここで誤入力と定義しているものは、入力方法が間違っているもの、入力方法が判らなかったものの二つを含んでいる。全体の平均誤入力率は42.3%で、パソコン所有者32名の平均誤入力率は41.8%、非所有者の平均誤入力率は45.5%であった。平均誤入力率に大きな差はなく、所有者・非所有者の誤入力項目の相関係数は、 $r=0.79$ で、二者間の誤入力項目に大きな違いがないという結果が出た。

パソコン上での日本語使用頻度と誤入力率も検証してみた。使用頻度は、1. 毎日/ほ

ぼ毎日、2. 週に2〜3日程度、3. ほとんど／全然使用しない、の三つに分け、アンケート調査時に自己診断を行った。

図3 日本語使用頻度と誤入力率

使用頻度	誤入力率
毎日／ほぼ毎日	26.6%
週に二〜三日程度	42.2%
ほとんど／使用しない	59.9%

パソコン上における日本語の使用頻度の自己診断結果から3つのグループに分け、それぞれの誤入力率を見てみると、「毎日／ほぼ毎日」使用しているグループの誤入力率は26.6%、「週に二〜三日程度」使用しているグループは42.2%、「ほとんど／全然使用しない」グループは59.9%となり、使用頻度と誤入力率は正比例の関係、つまり使用頻度が高ければ誤入力率も低く、習熟度が高いことが判明した。特に「毎日／ほぼ毎日」日本語を使用している学習者は誤入力率が26.6%であり、このグループの誤入力率の高い音節は外国語の原音に近づけるために使用されているものがほとんどのため、実際の日本語入力ではほとんど困らない水準だと思われる。

3. ローマ字変換表マウスパッドの効果

第二回目の調査は、2006-2007年度末にあたる2007年5月に実施する予定であり、原稿執筆時点ではデータを元にして論ずることは出来ない。ここでは、第一回目の調査データを元に効果予測をすることにする。

まず、全体の中で「毎日／ほぼ毎日」使用している学習者は42名中8名であり、全体の二割弱である。この学習者グループの誤入力項目を見てみると、使用される機会が極めて限られている「ぢゃ行」や「ぐぁ行」「ぢ」等であり、前述の通り日本語入力にはほとんど困らない水準にあると言える。42名中26名を占める「週に二〜三日使う」グループは、前述の項目に加えて「ふぁ行」「てい」「ちえ」「じえ」等の誤入力率が高かった。「ほとんど／全然使わない」グループは誤入力率が約60%に達しており「みゃ行」「りょ」「にゃ」「しえ」等を入力できなかつたことが目を引く。ローマ字マウスパッドはこれらの学習者グループが正しく入力できなかつたものも含めて、全ての音節が網羅されており、目に触れやすい場所に設置しておけばローマ字入力習熟度向上の助けになるのではないかと期待できる。

しかしその一方で、期待するほどの効果が出ないも可能性も高い。その理由として挙げられるのは、まずコンピューター利用環境の大きな変化、つまりPC所有者の大幅な増加である。今回の調査では42名中32名がパソコンを所有していると答えているが、2004

年に当時の三年生を対象にコンピューター技能の調査を行なった時は、24名中2名しか自分のパソコンを所有しておらず、日本語でメールやレポートを書いたりする場合は大学の日本語PC室を利用する必要があった。所有者が増えたことで大学のPC室を利用する必要性がなくなってきたため、当然ながらマウスパッドそのものを目にする機会も減少してしまう。

それに加えて、2007年2月から学内ネットワーク機器の故障により日本語PC室の全ての端末からインターネットアクセスが出来なくなっており、3月末日時点でも修繕されていない状況が続いている。そのため、この二か月程の期間はほとんどPC室が利用されておらず、ローマ字マウスパッドそのものが学習者の目に触れていない状態である。

4. まとめ

調査対象となったトルコ人日本語学習者のローマ字入力習熟度を概観すると、使用頻度の高くない拗音、特に濁音、又は、エ段の音を含む音節の入力方法が判らない学習者が多いことが明らかになった。また、パソコン上における日本語使用頻度と誤入力率は正比例の関係にあり、使用頻度の高い学習者ほど誤入力率が低いことが判った。ローマ字一覧マウスパッドは誤入力率の高い音節も網羅しており、入力改善の補助になる可能性はあるが、PC所有者がこの数年で急増したため、PC室に設置してもあまり効果がない可能性もある。そのため今後の課題として、学習者のコンピューター利用環境の変化に合わせて、学習者個人に配布する等して再検証する必要があると思われる。同時に、誤入力率の高い音節を含む語彙を入力訓練時に取り入れる等、マウスパッドの使用を促す指導上の工夫をする必要もあるだろう。

参考文献

- 土屋順一、『外国人学習者の日本語ワープロ誤入力の分析と外国人用漢字変換辞書の開発』、
文部省科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書 課題番号 09680296、2000
- 土屋順一、『外国人学習者の日本語作文キーボード入力過程の分析とデータベースの作成』、
科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書 課題番号 12680300、2003
- 中澤一亮・畑佐一味、『効果的なキーボード入力のチュートリアルと改良版IMEの効果』、
2004年日本語教育国際研究大会予稿集発表2、p.76-81、2004
- 畑佐一味・中澤一亮、『日本語学習者のキーボード入力に関する研究-英語話者を中心に-』、
CASTEL/J 2002 Proceedings、p.9-10、2002